



架け橋

第13号

(令和3年2月1日発行)

ホームページ: <http://mihashi-j.saitama-city.ed.jp/>

E-mail: mihashi-j@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 : ゆたかに・かしこく・たくましく

「自制心」と「やり抜く力」

～7つの能力、認知能力、非認知能力～

校長 井山 直之

今日から2月です。今年度もあと2ヶ月となりました。まだしばらく寒い日が続くと思いますが、厳しい気候に負けずに、中学校生活における1年間の総まとめをしっかりと行ってください。

今月号では、人間の能力について考えてみたいと思います。人間の「能力」は、次の7つに分類できるという考え方があります。アメリカのある大学の心理学教授は、「能力とは、単に言葉をあやつる能力とか数学とかIQばかりでなく、複雑に込み入った形で、少なくとも7種類ある」といっています。彼によれば、その7つとは次の通りです。

- ① 人間関係における察知力…他人の気持ちや気分を察する能力。
- ② 内省能力…自分の感情や能力に必要なことを知る能力。
- ③ 空間的察知力…物の視覚的な形態や位置、空間的な動き、寸法や体積などを推定する能力。
- ④ 身体的能力…自分の体に関する知覚力。体を動かすときのコントロール力、運動神経の能力。
- ⑤ サウンド、音楽的能力…音とリズムを識別したり、創り出したりする能力。
- ⑥ 言葉の能力…会話力と書かれた文章を理解する能力。
- ⑦ 数学的、論理的能力…物事の論理的帰結を理解し、情報を処理する能力。

等です。生徒の皆さんもたくさん能力をもっていると思います。

さて、次は少し見方を変えて、人間として「見える能力」と「見えない能力」について考えてみたいと思います。IQ(知能検査)や学力テストで測定される能力は、一般的に「認知能力」といい、点数などで目に見えます。学力はこの認知能力の一つで、テスト等で計測することができる、「目に見える能力」になります。それに対して、最近「非認知能力」という言葉をよく耳にします。ある教育経済学者によれば、「非認知能力」とは、「自制心がある」とか「忍耐力がある」、「社会性がある」とか「意欲的である」といった人間の気質や性格的な特徴のようなものを指すそうです。測定することが難しい「目に見えない能力」で、いわゆる「生きる力」と同質のものであるといわれます。生きる力は目に見えないと思います。しかし、この「非認知能力」を身に付けているかどうかは成績の向上等にも関係しており、長期的に見ても就職や年収等、その人の人生に大きな影響を及ぼすということが指摘されています。また、「認知能力」と「非認知能力」には相関関係があり、お互いに良い意味での相乗効果を発揮するようです。そして、様々な「非認知能力」の中で特に重要なのは「自制心」と「やり抜く力」だと言われます。「自制心」は忍耐力や自己抑制力と言い換えることができます。「目の前のことにとらわれたり誘惑されたりせず、今、やらなければならないことを我慢してやり遂げられる力」のことです。もう一つの「やり抜く力」は、「非常に遠い先にあるゴールに向けて、興味を失わず努力し続けることができる気質」のことです。そして、この、「誠実さ、忍耐強さ、社交性、好奇心の強さ」などの気質や性格的な特徴は、元々その人に備わっていただけでなく、他の人から学び獲得することができ、その力は教育やトレーニングによって鍛えて伸ばすことができるという点が重要なポイントです。「非認知能力」とされるもの多くは、成人後まで継続と反復によって鍛えて伸ばすことができるものが多いそうです。そのためには「心構え、心のもち様」が重要で、「自分は、生まれつきの能力をもっているだけでなく、努力によって多くの能力を伸ばすことができる」と考えられる「しなやかな心」をもつことが大切であるといわれます。今、成長期にある中学生の皆さんは、この「非認知能力」を意識して鍛えることで、それを大きく伸ばすことができる可能性がより高くなります。つまり学校は、ただ単に勉強をして「認知能力(学力)」を身に付けるだけのところではなく、先生や先輩、同級生から多くのことを学び「非認知能力」を培う場でもあるということです。この能力を身に付け向上させるためには、学校行事への積極的な参加や部活動、生徒会活動やボランティア活動等に取り組むことが有効だそうです。

「優秀だといわれる人は、自分を磨き高める必要性を人生のある時期で自覚する」といわれます。自分の可能性を信じて日々の学習を大切にして学力向上に積極的に取り組むとともに、「非認知能力」を高めて、生徒の皆さん全員がより豊かな人生を送ってほしいと思います。